
[成果情報名] ブドウ苗木生産における低樹高一文字仕立てによる台木の省力栽培と苗ほのマルチ被覆による成苗率向上

[要約] ブドウ台木は、主幹長50cmの低樹高一文字仕立てで栽培することで、新梢管理作業における不良姿勢作業の時間が削減でき、樹冠面積当たりの採穂数が増加する。成苗率は苗ほに黒ポリマルチを被覆することで向上する。

[キーワード] ブドウ苗木、低樹高一文字仕立て、成苗率、マルチ

[担当部署] 苗木・花き部；苗木チーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

ブドウ台木の樹勢は強く、新梢管理では不良姿勢の作業を長時間余儀なくされ、身体的負担が大きい。そのため、苗木生産者は台木の栽培を敬遠しており、台木の不足が課題となっている。また、ブドウ苗木の成苗率は、苗ほの土壌乾燥による生育不良のために低く、県内産地の需要量を満たせていない。そこで、ブドウ苗木の安定生産を目的に、台木の低樹高一文字仕立てによる省力栽培方法と黒ポリマルチの被覆による成苗率向上技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. ブドウ台木の低樹高一文字仕立ては、主幹長50cm、主幹長2mとして、新梢は直上方向に誘引し、地上180cmの高さで捻枝後に直下方向に誘引する（図1）。
2. 低樹高一文字仕立ては、新梢管理で腕を肩より上げる不良姿勢作業の時間が削減され、割合も減少する（表1、一部データ略）。
3. 低樹高一文字仕立ての定植3年目の樹冠面積当たり採穂数は、「テレキ5BB」と「イブリッド・フラン」とともに、平棚仕立て（慣行）より多い（図2）。
4. ブドウ苗木は黒ポリマルチを被覆した苗ほに定植することで、生育が促進され、特等苗率と成苗率が向上する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 台木を低樹高一文字仕立てで栽培することで、苗木生産者が台木を容易に栽培できる。
2. 低樹高一文字仕立てに必要な果樹棚は、直管パイプ（25.4Φ）と番線（＃12）を使って自家施工可能で、1樹当たりの資材費は約3,600円である。

[具体的データ]

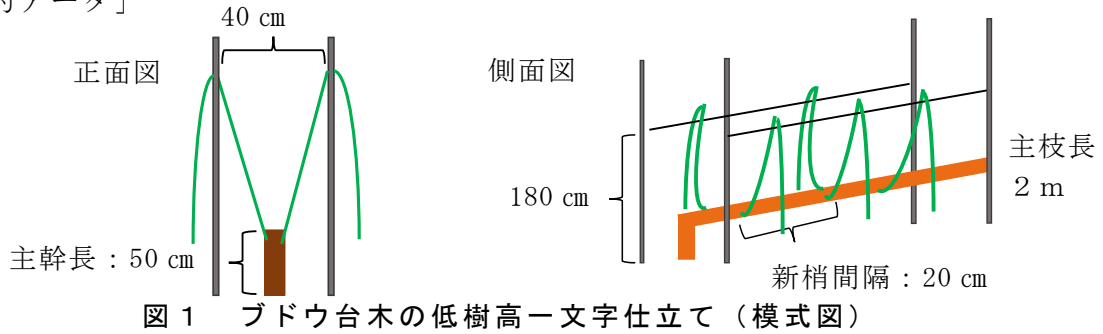


図1 ブドウ台木の低樹高一文字仕立て（模式図）

表1 低樹高一文字仕立てにおける新梢管理時間と不良姿勢作業時間（令和3年）

試験区	新梢管理時間 (分：秒)	n. s.	うち不良姿勢作業	
			時間 (分：秒)	割合 (%)
低樹高一文字仕立て	56:56		13:27	23.6
平棚仕立て（慣行）	69:22	n. s.	68:04	98.1

- 注) 1. 供試品種は「テレキ5BB」
 2. 新梢管理時間は、1樹当たり6回（4～8月）の作業時間の合計
 3. 不良姿勢作業は、腕を肩より上げる作業
 4. t検定により、*は5%水準で有意差あり、n. s.は有意差なし

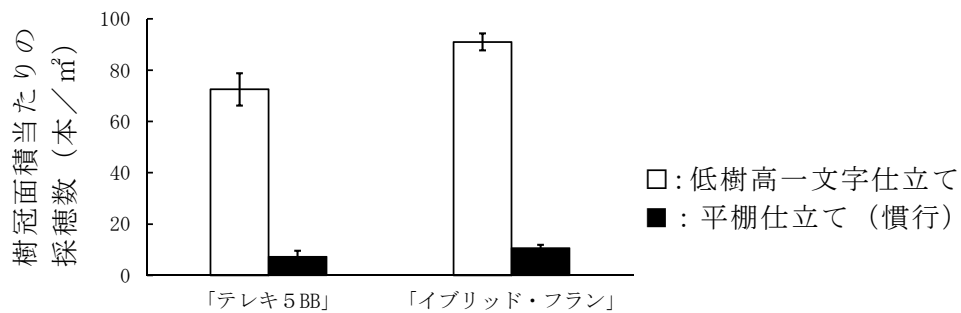


図2 樹冠面積当たりの採穂数（令和3年）

- 注) 1. 採穂数は、直径6.0mm以上かつ長さ25cm程度の枝の数
 2. 図中の垂線は標準誤差を表す

表2 苗ほのマルチ被覆が「巨峰」苗木の生育と成苗率等に及ぼす影響

試験年	マルチ	苗径 (mm)	特等苗率 (%)	一等苗率 (%)	成苗率 (%)
令和3年	あり	7.3	77.8	22.2	100.0
	なし	4.2	0.0	57.1	57.1
令和4年	あり	6.2	68.8	31.3	100.0
	なし	4.0	0.0	53.3	53.3

- 注) 1. 苗径は、接ぎ木部より30cm上部の径
 2. 苗丈60cm以上で特等苗率は苗径6mm以上、一等苗率は苗径4mm以上の苗の割合
 3. 成苗率は特等苗率と一等苗率の合計
 4. 統計処理により、*は5%水準で有意差あり

[その他]

研究課題名：ブドウ苗木の安定生産技術の開発

予算区分：国庫受託（農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究）

研究期間：令和3年度（令和元年～6年）

研究担当者：四宮 亮、井樋昭宏、田中莉依、松本和紀